

## 第5学年 実践事例

主題名 きまりや規則の尊重

内容項目：4－（1）

資料名 星野君の二るい打

出典『希望を持って』（東京書籍）

日時 2011年6月1日（水）第5校時

### 1 ねらい

決まりや規則の意義を理解し、自分たちで決めたきまりは進んで守ろうとする態度を育てる。

### 2 主題設定の理由

〔ねらいとする価値〕

人間として、きまりや規則を守ることは当たり前のことである。皆が守らないと、社会は成立せず、混乱する。社会生活を送る上で、ルールや基本的なモラルなどの倫理観を育成することは非常に重要なことなのである。学校生活においても、きまりや規則が破られた無秩序な教室や学校では、皆が安心して学校生活を送ることができない。児童なりに、所属する社会のきまりや規則の意味や存在意義を理解し、自分の利害だけにとらわれず、正しい判断をしながら、きまりを守っていこうとする意識を育てることが必要である。また、それに関連して、他人の権利を尊重しながら、自分の権利も正しく主張するとともに、自他の立場を認識し、自覚し、自分に課された義務をしっかり果たす態度を育成することも重要である。

〔児童の実態〕

5年生に進級し、新しい教室、新しい学級、新しい担任、そして何より高学年の仲間入りを果たした子どもたちは、希望に胸をふくらませ、瞳を輝かせていた。しかし、4月当初の子どもたちの様子は、高学年らしいとは言い難いものであった。時間を守るなど約束を破ることに何の抵抗もなく規範意識の低さが目立つ。忘れ物も多く、宿題などの提出物が揃うこともない。勝負事になると、勝ちにこだわりすぎるためルールが意味を成していない。もちろん、全員がそうであったわけではないが、集団としてトラブルが頻発する原因が数多く認められ、頭を悩ませた。一方で、自分は正しくありたいと願うが、他者に対して悪いことは悪いと主張できなかつたり、反撃を恐れ、自分の思いを閉じ込めたりしてしまう子もいた。自分だけの達成では、集団全体での底上げが期待できない。何事も「みんなで」の達成を目指し、集団全体で豊かな心に磨き合いたいと願う。このような状況に悲観するだけではなく、声をかけあって、励まし合って、高め合える仲間でありたいと常々訴えかけてきた。本時では、改めて何のためにきまりや規則が存在するのかを考え、自分たちの生活を振り返ってほしいと願う。高学年として、学校全体のリーダーとして、あるべき姿について問いかけたいと思う。

〔資料の活用について〕

本資料は、野球大会の話である。県内野球選手権を控えた大切な試合であった。星野君は監督からバントのサインを受ける。今までの挽回をねらい打てそうだという自信と、張り切って高揚する気持ちを抱きながら、星野君は曖昧な返事をして打席に入る。サインを破り、2塁打を放った星野君。自分のチームに勝利をもたらし、県大会に駒を進めたことで英雄と評される。しかし、試合の翌日、監督からは賞賛されるどころか、「チームの規則を乱したものをそのままにしておくことはできない。」と言い放たれ、非難されることとなる。集団競技や、試合に勝ち進みたいという共通の目標など、児童が主人公に置き換え、捉えやすい資料である。また、とにかく勝てばよいと短絡的に考えてしまいがちな児童にとって、集団生活には、なぜきまりや規則があるのか、なぜ必要なのかを深く考えさせられる資料である。

ただ、スポーツを好む男子にとっては適切な資料であるが、そうでない男子やルール自体を知らない女子にとってはやや難点があるかもしれない。導入では専門用語の解説や、経験者の発言を基に、その部分を補えるようにしたい。

[研究テーマにかかわって]

人とのつながりを大切にし、よりよい生き方を求める実践力の育成  
～言語感覚を磨き、自尊感情を高める取り組み～

#### ◆ねらいにせまるための手だて

##### ①円座になっての話し合い ～人とのつながりを大切にする～

円座になって話し合うスタイルは、道徳だけではなく、体育の作戦会議や学級活動でも定着している。体育の時間や色別活動の後でも、必ずリーダーは集合をかけて、このスタイルで反省会を行っている。このスタイルは子どもたちが自然に創り上げたものである。みんなで話し合いを行う時は必ず円になり、向かい合って座っている。座席は、「みんなが意見を言えること」、つまり意見の出しやすい環境づくりにこだわった子どもたちの配慮によるものである。新しい学級になり、まだ日も浅い。担任よりも、仲間と過ごした時間が長い児童達の方が、一人ひとりことをよくわかっていると思いついて任せてみた。

円座になっての話し合いは、いつもの話し合い時のスタイルなので、安心して発言できる。また、心を表現したカードも見えやすい。友達同士向き合い、近い距離で話すので聞きやすく、友達のあいづちやつぶやきも聞こえる。自分に集まり、「聞いているよ。」という仲間のまなざしを感じることで、心強く感じられる。仲間の意見を大切に聞きながら、つながりを大切にする心情を育みたい。

##### ②心がみえる教具の工夫 ～よりよい生き方を求める実践力の育成～

この学習では、星野が打席に立った時の行動に、①賛成と②反対の2つの立場から自分の思いを発言し、話し合う。子どもたちはどの立場の考えを持っているかを明確にするために、カードを提示する。もちろん、どちらかの立場にいるのか明確にできる児童もいるが、どちらとも決められず悩む児童もいるだろう。そういう場合は、2つの色が見えるように提示する。カードの色の面積の大きさでどちらに考えが傾いているかも表現する。仲間の意見によって価値が高まり、自分の取りたいと考える立場が変容した場合はカードを操作する。こうして、仲間の心が見えるような工夫をし、共感したり、質問したりしながら思考を深めるきっかけとした。

##### ③話し合いの中で、仲間と意見と自分の意見の繋がりを持たせ、深め合える工夫

～人とのつながりを大切にし、よりよい生き方を求める実践力の育成～

話し合いの中で、児童の発言が出て、また違う児童が違う意見を言う。これでは、話し合いではなく、発表に止まってしまう。この話し合いでは、仲間の意見を聞いてどう感じたのか、自分の意見に変容が見られたなど、意見と意見の繋がりや、深まりをねらいたい。そのために、ハンドサインを活用する。自分の意見を言う時には、①グー「グッときた。」(自分と同じ意見だった。仲間の意見で自分の意見が変わった。) ②チョキ「チョッとおしえて。」(詳しく聞いてみたい。質問してみたい。) ③パー「パッとひらめいた。」(話題を変える。)【資料1】担任が指名する時にも、意図的な指名ができ、児童と児童の思いを繋ぐことができると考える。